

北関東防衛局広報



防衛省北関東防衛局総務部報道官編集発行
さいたま市中央区新都心2-1
<http://www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/>



開所式局長訓示



除幕式

百里防衛事務所



百里防衛事務所の開設

北関東防衛局は、1都7県（茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、新潟、長野）を管轄し、防衛事務所が6箇所、出張所が1箇所にあります。茨城県を管轄する防衛事務所は水戸市内に水戸防衛事務所があり長年皆様に親しまれてきました。

しかしながら、米軍再編に伴う百里基地への訓練移転など茨城県の中で百里基地関連の業務が増えている昨今の状況を踏まえ、百里基地が所在する小美玉市に事務所を移転することとして、4月1日、百里防衛事務所の開所式が行われました。

住所：茨城県小美玉市小川1853-2 電話：0299-58-2220

【案内図等は、ホームページ <http://www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/> を御覧下さい。】

北 関 東 防 衛 局

わが国の平和と安全を守るため、全国各地に自衛隊及び米軍の基地がありますが、その基地の運用に伴って基地周辺の方々に航空機騒音などの種々の負担をかけています。

こうした負担を軽減するため、防衛省は、基地周辺の自治体が行う公園や集会施設及び学校の防音事業など公共施設の整備のお手伝いをしています。

防衛省は、こうした施設の整備が、地域の方々の豊かで快適な環境整備に役立てればと考えています。

今回、北関東防衛局は、初めての試みでしたが、茨城県の空自百里基地の周辺地域で整備された公園や校舎などで、学んだり遊んだりしている友達や家族の絵を小学生に描いてもらって絵画展を催しました。

633点もの多くの応募があり、4月24日から29日までの間小美玉市、鉾田市、行方市の公民館等で立派な絵画展を開くことが出来ました。

入 賞 作 品 (おめでとう！)



ほのぼの賞
石川 阿佑美さん



のびのび賞
山本 珠紀さん



あざやか賞
藤岡 裕真さん



元気いっぱい賞
大畑 真子さん



夢いっぱい賞
大場 愛梨香さん



和やか賞
成島 愛さん

小学生絵画展



表彰状授与



戦闘機に登って



自衛隊のご飯おいしい



受賞者及びその御家族（局長を囲んで）



小美玉市文化センター会場



鉾田市鉾田図書館会場



行方市玉造公民館会場

応募作品は、子供たちがどれも一生懸命に書いてくれた、夢や希望がいっぱいのすばらしいものばかりでした。その作品の中から「ほのほの賞」、「のびのび賞」、「あざやか賞」、「元気いっぱい賞」、「夢いっぱい賞」、「和やか賞」の6点の入賞作品を選び、4月26日（土）に百里基地で授賞式を行いました。

授賞式では、お父さん、お母さん、おばあちゃんや姉弟に囲まれみんな喜んでいました。賞状と賞品の防衛省特製の航空機のソリッドモデルを貰い本当にうれしいと言っていました。また、子供たちは、自衛隊の昼食を食べたり、本物の戦闘機に登り記念撮影をしたりして家族で楽しい一日を過ごしました。

第8回防衛問題セミナーのご案内

テーマ：東アジア情勢と日本の防衛

講師：森 本 敏 (拓殖大学海外事情研究所長)



開催日：平成20年6月9日(月)
15:00～17:00

会場：さいたま新都心合同庁舎 1号館2階講堂
(JR京浜東北・高崎・宇都宮線「さいたま新都心駅」より徒歩5分)

入場無料・事前申込不要 (定員500名になり次第締切)

お問い合わせ先：防衛省 北関東防衛局 総務部総務課 048-600-1805

防 衛 閑 話

防衛省のような役所に勤務していると、「国力」とは何だろうと考えることがあります。直ぐに思い浮かぶものは、「軍事力」「経済力」「技術力」「国土の広さ」「人口」などといった要素でしょう。また、最近の議論として、その国の持つ文化的な魅力などの要素も「ソフト・パワー」として考慮すべきとの議論もあります。しかしながら、塩野七生さんが書かれた大著「ローマ人」の物語を読み続けていると、上記のような国力を構成する各要素は、表面的な尺度に過ぎないのであって、ある国の力を考える上でより重要なものは、目には見えない、計量もできないその国が有する「内生的な本質」ではないかと考えさせられます。その国が持つそうした内生的な本質について考察しない限り、何故、その国が大国になったかは理解できないと思います。

塩野七生さんは、ローマ人の物語の第1巻の冒頭で次のような問題提起をしています。「古代のローマ人は、知力ではギリシア人に劣り、体力ではケルトやゲルマンの人々に劣り、技術ではエトルリア人に劣り、経済力ではカルタゴ人に劣っていた。それなのに、なぜローマ人だけが、あれほどの大を成すことができたのか」塩野さんは、この大いなる疑問を解くために、15巻にもおよぶローマの歴史を書き始めたと言っています。

私のような浅学非才の読み手の解答は間違っているかもしれませんが、解答のヒントの一つはローマが実践してきた「敗者の同化」にあるように思います。戦争で打ち破った、征服した相手に対しても、勝者と同じ地位を与える。征服した相手のものであっても良い制度や文化であれば、何らの躊躇なく、そうしたものを導入していく。このような「寛容」「包容力」「度量の大きさ」、こうした精神性こそローマの強さを支えた根源だったのではないのでしょうか。ローマ帝国が繁栄を謳歌したのは、5賢帝時代であると言われていますが、この5賢帝の何人かは元々、ローマの属州だったところの出身だったようです。譬えて言えば、イギリス本国の首相にインド出身の人物がなるようなものです。ローマの強さの源泉であった国家の「度量の大きさ」と言う尺度で、現在の各国を採点してみたら、面白いことになるのではないのでしょうか。

(今号から、北関東防衛局の職員が、防衛や安全保障にかかわる雑感を「防衛閑話」として記述することとしました。その意見はあくまでも個人的なものですので念のため。)